



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 58

PROFILE

1949年、イギリス・ウェールズ生まれ。17歳で初めてカナダの北極圏に渡って以来、12回にわたり北極地域を調査。また、エチオピアのシミエン山岳国立公園を創設し、初代公園長を務める。80年には長野県に居を定め、荒れ果てた里山を購入。「アフアの森」と名付け再生活動を始める。現在、「一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団」の理事長を務め、さまざまな環境保護活動を展開している。

私がまだ幼かったころ、故郷のイギリスのウェールズでは、産業の発展のために大規模な環境破壊が進んでいました。その光景を目の当たりにして、悔しくて仕方ありませんでした。そんな時、たまたま見たドキュメンタリー映画で、イヌイットの生活を知り、「これだ!」と思ったのです。たくましくて、格好よくて、この人たちと一緒に暮らしてみたいと思い、北極探検家になることを決意しました。それが、12歳の時です。

5年後、北極海周辺に生息するケワタガモの研究を行うため、初めて北極圏に渡りました。ツンドラの中を歩き、生息地に向かっていると、不思議なことに、バスの音や教会の鐘といった幻聴が聞こえ始めました。しかし、それも次第に聞こえなくなり、最終的に、自然の音だけの世界に入ったのです。それが、どれほど嬉しかったことか。自然の素晴らしさを肌で感じ、それ以降も度々、北極の調査探検を行うようになりました。

22歳の時、空手の修行のために初めて日本を訪れました。その時に出会った



のは、さまざまな種類の木々が存在する美しい森でした。私は一瞬で、日本が大好きになりました。

しかし、30歳になって再び日本に戻った時には、状況が一転していました。次々と伐採されていく原生林、放置された雑木林、水源地に捨てられた産業廃棄物。絶望のどん底にいた私に、知り合いだったウェールズの政府の人から、「今のウェールズの姿を見に来てください」と書かれた手紙が届いたのです。何年かぶりに訪れたふるさとは、炭鉱の跡地だった場所は緑に変わり、汚染されていた川にはサケやイワナが戻り、子どもころとは全く違う景色が広がっていました。人々の努力によって環境は変えられるということを知り、強く感じたのです。自分にもできることはある。その時、日本の森を再生させることを心に決めました。

それから、私は長野県黒姫の放置されていた土地を購入し、勇気をくれたウェールズの森の名前にちなみ、「アフアの森」と名付けました。荒れ放題だっ

愛する森を守りたい

作家、ナチュラリスト C.W.ニコル

た森の間伐を行うことから始め、水路の整備や、鳥の巣箱の設置など、さまざまな取り組みを進めていくうちに、絶滅危惧種を含む多くの生物が森にかえてきたのです。

これまで、さまざまな国で環境保護に取り組んできましたが、最後の冒険の場所は、大好きな日本と決めています。今、私が目指しているのが、馬と一緒にアフアの森や山々を歩く「ホーストレッキング」を広めることです。誰でも気軽に楽しむことができるこの冒険は、多様な生物や植物に触れながら、森林が持つ癒やしの効果を満喫できる体験になると信じています。そしてこれからも、自然の大切さと素晴らしさを、伝え続けていきたいと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「」で